

各位

kawasaki-info



Vol.166 (2025年8月発行)

発行：学校法人川崎学園

川崎医科大学総合医療センター

患者診療支援センター 地域医療連携室

「機能的筋力低下早期診断の重要性」

川崎医科大学総合医療センター

内科部長（総合内科学1・脳神経内科）黒川 勝己

“機能的筋力低下”という言葉をご存知でしょうか？これは“心因性筋力低下”とも言われるものです。心因性なので精神科医が診断されると思われるかもしれませんが、脳神経内科医が診断すべき病態です。

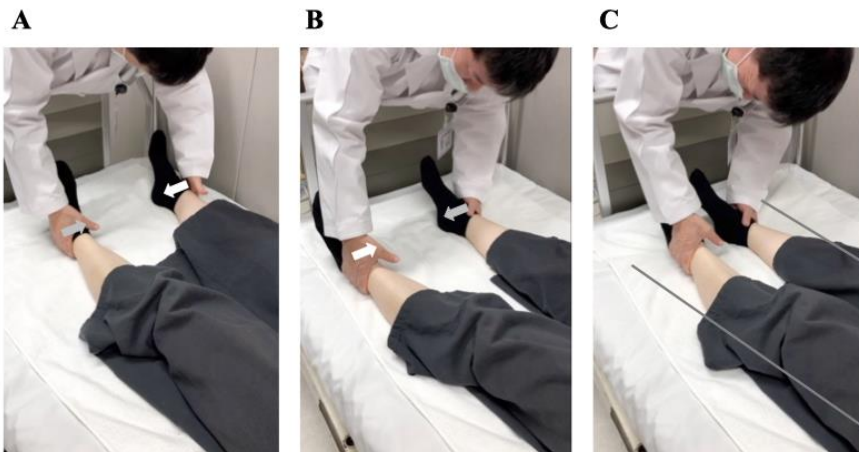
一例を提示します。5X歳、女性が10年以上前追突事故に遭った後から左下肢筋力低下を生じているとのことで紹介されました。Sonoo外転試験では機能的筋力低下のパターンを示しました(図)。さらに、針筋電図検査でも機能的性を支持する所見を確認しました。

このような、器質性疾患では生じ得ない筋力低下パターンが「陽性徴候」と呼ばれるもので、機能的筋力低下診断の鍵となります。「陽性徴候」を診る方法として、その他にHoover試験、大殿筋筋力低下、逆説的手関節屈曲等があります。検査は最低限として、なるべく早期に「陽性徴候」に基づいて機能的筋力低下と積極的に診断すべきであると言われていました。

早期に診断すれば改善も容易ですが、先ほどの患者のように時間が経てば経つほど改善が難しくなります。治療については、まず“機能的筋力低下”であることを伝えます。検査をしても原因不明という不安な状況から、診断がついて治る病態であることを知るだけで、すぐに改善をされる方もおられます。また、Sonoo外転試験の際に、先ほどまで力が入らないと思っていた筋に力が入ること(図Aの状態)を患者に自覚してもらうことも治療につながります。発症から時間が経過している患者ではすぐにすべての症状が改善されないため、リハビリテーション科の協力が必要となります。また心療科の協力が必要な場合もあります。

以上、“機能的筋力低下”について、その診断は脳神経内科医の診察にて行われること、早期診断が治療には大切であることをお伝えしました。もしも、疑わしい患者がおられましたら、ご紹介いただければ幸いです。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

図 Sonoo 外転試験



<図 Sonoo 外転試験>

- A まず、右下肢外転の筋力をみると説明し、右下肢を外転させる。医師は右下肢を内転させる方向（白矢印）に力を加え、患者はそれに抵抗するように力を入れる。この時、実は医師は左下肢を内転させる方向（灰色矢印）にも力を入れている。本患者では筋力が正常な右下肢だけでなく、弱いはずの左下肢もびくともしなかった。
- B 次に、左下肢外転の筋力をみると説明し、同様な手技を行う。
- C 本患者では、弱い左下肢が内転方向に動いたのみならず、強いはずの右下肢も過内転した（灰色線は左右下肢の元の位置を示す）。
- このように、弱いはずの左下肢が強くなり(A)、強いはずの右下肢が弱くなる(C)場合、機能的筋力低下と考えられる。

セミナーのご案内

別紙のとおり、急性期病院として地域住民に安心を提供できる医療連携の構築を目指し、病診連携・病病連携の充実を図ることを目的として下記を開催いたします。
奮ってご参加をお願いいたします。

『令和7年度 第3回 せとうちクリニカル・ベストプラクティス・ミーティング
Webセミナー』

日 時：令和7年9月13日(土)14:00~15:30 (入室13:30~)

方 法：オンライン (Zoom)

テーマ：摂食嚥下障害の評価と誤嚥予防の実践

～退院後にも繋がる継続看護～

講 師：川崎医科大学総合医療センター

摂食嚥下障害看護認定看護師 米川 美沙恵

対 象：医療・介護・福祉施設の専門職

参加費：無料（岡山県医師会生涯教育単位 1.0 申請中）

申込方法：氏名・施設名・職種・医師登録番号（医師のみ）・住所・電話番号を記入の上、
地域医療連携室にメール (renkei@hp.kawasaki-m.ac.jp) にお申し込みください。

ハイフン

病院理念

- 1.医療は患者のためにある
- 2.すべての患者に対する深い人間愛を持つ
- 3.24時間いつでも診療を行う
- 4.先進的かつ高度な医療・教育・研究を行う
- 5.地域の医療福祉の向上と医療人の育成を行う

学校法人川崎学園 川崎医科大学総合医療センター
患者診療支援センター 地域医療連携室

〒700-8505 岡山市北区中山下二丁目6番1号

TEL 086-225-2133 (直通)

FAX 086-221-1101

E-mail shien@hp.kawasaki-m.ac.jp